

環境にやさしく、安全なまちへ!

特集

自転車走行マナーを考える。

自転車走行量が多い街として知られる盛岡市。平成 27 年6月には改正道路交通法が施行され、より安全な走行が求められる中、盛岡市では7年前に、社会実験として自転車走行空間「ブルーゾーン」を整備。その取り組みは、自転車走行マナー向上に大きな成果を見せています。



視覚的にわかりやすい大通のブルーゾーン



長期的計画のもとで自転車利用推進を進めたいと、松田論さん

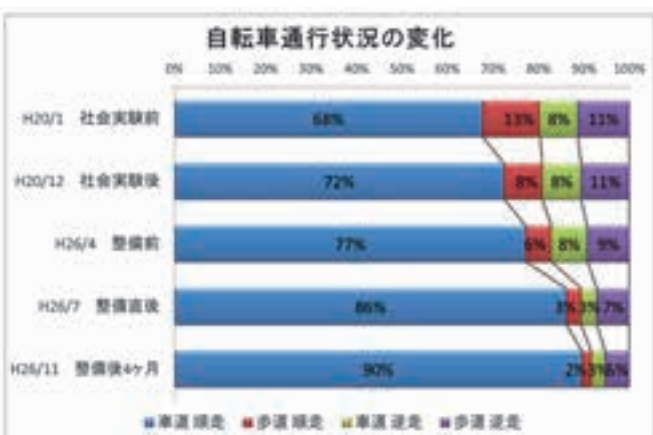
条例では各機関のなすべき責務を決めており、盛岡市は自転車走行空間の整備や駐輪場の整備、マナー改善への取り組みを進めています。その主たるものが、自転車走行環境や

「実験前の調査では車道順走者が68%でしたが、実験後は徐々に増えていきます。自転車走行用ラインを引いた当時は、ブルーのベタ塗りで走行方向の矢印も一部にしか記されていませんでした。昨年、大通の舗装

「実験前の調査では車道順走者が68%でしたが、実験後は徐々に増えていきます。自転車走行用ラインを引いた当時は、ブルーのベタ塗りで走行方向の矢印も一部にしか記されていませんでした。昨年、大通の舗装

ブルーゾーン設置の経緯

社会情勢の変化に対応した交通環境の確立を進める中、盛岡市では平成19年7月に「マイカー利用を抑制し、公共交通や自転車の利用促進」を打ち出した盛岡市総合交通計画を策定しました。計画策定にあたっては、市民を集めたワークショップや学識者による懇話会を何度も開催。そこで浮き彫りになった自転車の運転マナーを改善すべく「盛岡市自転車の安全利用及び利用促進並びに自転車等の放置防止に関する条例（平成20年4月施行）」を定めました。さらに平成21年10月、盛岡市における交通の将来像に向けて取り組んでいく具体策として「もりおか交通戦略」が打ち出されました。



ブルーゾーンの効果のグラフ

「実験前の調査では車道順走者が68%でしたが、実験後は徐々に増えていきます。自転車走行用ラインを引いた当時は、ブルーのベタ塗りで走行方向の矢印も一部にしか記されていませんでした。昨年、大通の舗装

「実験前の調査では車道順走者が68%でしたが、実験後は徐々に増えていきます。自転車走行用ラインを引いた当時は、ブルーのベタ塗りで走行方向の矢印も一部にしか記されていませんでした。昨年、大通の舗装

ブルーゾーンとは?

駐車場の整備、利用促進のPR活動、自転車利用マナー向上の啓発活動など。中でも、自転車走行空間「ブルーゾーン」の整備は、着実にマナー改善の成果を生みだしています。

改良工事にあわせ、ゾーンを矢羽根に塗り直したところ、さらにマナーが改善され車道順走者は9割に。視覚的に方向を意識づけることで、逆走者も減りました。また、自転車走行帯を明確にしたことで、自動車も徐行して走るようになっていきます。取り組みの成果についてそう話すのは、盛岡市建設部交通政策課の主任・出茂清史さんです。ブルーゾーンの色は「市民によるアンケート調査により決定した」ものです。

商店街側の声は？

では、ブルーゾーン導入の変化を大通商店街の関係者はどう捉えているのでしょうか。盛岡大通商店街協同組合事務局長の阿部利幸さんに伺います。

「以前は、歩道でもスピードを出して走る自転車が多く見られました。危険ですが、自転車の歩道走行は高齢者や小さな子どもは緊急時であれば違反ではないことなので、注意の仕方が難しかったのです。条例が施



ブルーゾーン導入の経緯を話す出茂清史さん



ブルーゾーン設置後の自転車マナーについて話す、阿部利幸さん

行され、自転車専用の通行帯が設置されたことで、利用者自身も走行帯を理解しやすくなり、それに沿った乗り方をしていない場合の注意喚起をしやすくなりました。

同組合ではアーケード内に流れる放送で、定期的に自転車走行マナーの呼びかけを行ってききました。「右側走行は違反です」「歩道では自転車を押して歩きましょう」といった放送を聞いて、慌てて歩道をおりる人も多く、直接的な効果も感じています。以前は片側のみだったブルーゾーンは、塗り直す際に道路の両側に設置されました。それによって車道が狭まったのですが、危険回避のため徐行走行する車も増えたと阿部さんはいいいます。

「自転車が走行できる空間がしっかり確保されました。盛岡市の対策強化により、放置自転車の撤去回数が増え、放置の台数も減っています。通り全体がキレイになったことをウリに、街に人を呼び込んでいきたいですね。」

今後の展開とPR活動

今後は東大通や公園下も順次、矢羽根のブルーゾーンに塗り替えていく予定。他のエリアでも進めていきたい考えですが、道路適性に応じた整備が必要です。

「まずは自転車走行空間を確保できる道路について、自転車を安全に走らせるブルーゾーンを整備。自転車利用者や車のドライバーにブルーゾーンを認知させてマナー向上を図っていきます。他エリアは、塗り替えだけで整備ができる道路、車線を狭めて自転車走行空間を確保すべき道路等状況が異なるため、徐々に計画を進めていく予定です」と同課交通計画係長・松田諭さん。ブルーゾーン設置による成果を感じる一方、市内周辺部も含めた自転車マナー改善の必要性を説きます。

毎年同課では盛岡市内の高校から依頼を受ける形で、自転車走行マナーに関する講話に出かけています。また、盛岡市東警察署と連携し、自転車の通行マナー向上を呼び掛けるキャンペーンも実施。市内の中高生からも、チラシ配りや啓発活動に参加しています。こうした活動は、地道な積み重ねが必要。盛岡市農業高等学校からは毎年依頼を受けています。学校からの講話依頼には随時対応していくそうです。

今年度中の完成を目標にする「自転車ネットワーク計画」に基づき、

徐々に自転車走行帯の整備を進めていきたいと話す松田さん。自転車道を整備し利用を促進することは、自動車交通量を減らすことにもつながります。CO₂を削減し、環境にやさしいまち盛岡への足がかりとなるブルーゾーン。

その存在意義は、自転車利用者も

自動車のドライバーも広く周知しておきたいものです。



盛岡農業高等学校での自転車マナー講座



東署と協力して行う「自転車マナーアップ作戦」